

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597100050		
法人名	特定非営利活動法人いい日の里		
事業所名	グループホームすこやか		
所在地	山口県大島郡周防大島町大字棕野1338番地5		
自己評価作成日	平成24年12月21日	評価結果市町受理日	平成25年5月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 25年 1月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を作り、心穏やかに過ごせるよう職員は真心を持って接するよう努めています。併設のデイサービスや小規模多機能サービスの利用者様と交流を持ったり、行事に参加したり、他者との交流を持てるようにしています。

また、食事の面では、地元の食材をふんだんに取り入れ少量で品数を多くし、バランスを考えた献立にしています。入所者様の健康を願い、真心こめて毎日手作りしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

テレビやDVDの視聴、ゲーム体操、編み物や縫い物、銀杏拾い、いちじくジャムづくり、畑づくり、散歩や買い物、ドライブ、外食などの他、法人の事業所と一緒に季節の行事(ピヤガーデン、お月見、クリスマス、正月)毎月の誕生日会などを実施しておられ、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように取り組まれています。法人からの配食は旬の新鮮な食材を取り入れられ、毎食、品数が豊富で小鉢や小皿にきれいに盛り付けられ、目で見て楽しんで食欲が出るように工夫しておられ、利用者は栄養バランスのとれた食事を毎日楽しまれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「共生」「共に生きる」を職員全員が共有できるよう定期的に唱和している。	法人の理念「共に生きる」を事業所の理念としている。理念を事業所内に掲示し、唱和しているが、事業所独自の理念としては作っていない。	・地域密着型としての事業所独自の理念の作成
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩などが日常的な地域との交流となっている。地域の催事や季節の行事にはできる範囲で参加するようにしている。	御大師祭、船祭り、敬老会などの地域行事への参加や、隣接地であるゲートボールの見学、小学生の訪問(4～5名)(フラダンス)での交流、買い物や散歩で地域の人と挨拶交わすなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個別の問い合わせや相談には適宜応対しているが、地域に向けての活動という点では十分でない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価についてはミーティング等で全職員に周知し実施の意義を理解できた。今後は評価を具体的な改善に活かしていきたい。	管理者、計画作成担当者、リーダーで話し合って自己評価をまとめている。全職員での取り組みにまでは至っていない。	・全職員での自己評価の取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では施設の状況について報告を行い、メンバーからは率直なご意見やアドバイス等を頂いている。それは後日ミーティングにて職員に周知しサービス向上に努めている。	民生委員(2名)、地域住民(1名)、地域包括支援センター職員、家族、職員のメンバーで2ヶ月に1回開催している。行事や事業所の現状、活動などを報告し、ヒヤリハット報告について話し合っている。防災無線についての意見が出て取り付けられた。	・メンバーの拡大の検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入、退所時の報告を行っている。 疑問や問題が生じた時などは町に相談、指導を仰いでいる。	町の担当課には電話や出向いて、報告や情報交換、相談などをして、協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。 入院中ずっと抑制されていた方も入所と同時に抑制を解き、職員が細やかな見守りを行っている。 帰宅願望が強い時などは声掛けを工夫して心身の安定を図るように職員の意思統一をしている。	身体拘束について学び、職員は理解して抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせず、外出を察知したら、職員も一緒に出かける支援をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉や身体虐待防止について職員間で常に注意を払い、徹底して防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度について熟知しているとは言えないので、今後はマニュアルや資料等の確保、全職員への研修を実施していきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や主にご家族には事前に不安や疑問、要望等を尋ねている。 十分な説明を行い、理解、納得の上で契約を交わしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や来所時に頂いた相談や苦情は、受付した者が管理者に報告し書類に記入している。他の職員へはミーティングにて周知し改善に取り組んでいる。ヒヤリハットについては運営推進会議にて開示、助言を頂いている。	電話や面会時、運営推進会議時に家族から意見や要望、相談、苦情を聞いている。出た意見は、ミーティングで話し合い、共有して改善に向けて取り組んでいる。領収書の書式の変更や、業務の流れについての家族の意見を活かして改善している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全職員ミーティングにて職員の意見や提案を聞きだし、より良いケアに繋げていけるよう努めている。	月1回の法人のミーティングで職員の意見を聞く機会を設ける他、日常的に管理者が聞いている。勤務体制の見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや日常業務の中で職員の状況把握に努めている。 代表者は職員がやりがいを持って働けるよう環境や条件の整備に一層努めていきたい。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は案内を職員に周知し、希望者は受講できる環境になっている。内部研修は月に1回全職員ミーティングにて実施。日々の業務ではベテラン職員が実践の場で指導、助言を行っている。	外部研修には参加していない。法人研修を月1回の全体ミーティングの中で実施し、テーマを決めて職員が交代で講師を務めている。日常の業務の中で助言や指導をし、働きながら学べるように支援している。	・外部研修への参加の機会の工夫 ・研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や相互訪問等の活動は行っていない。新規の事業所であるので、疑問が生じた時や困った時など電話等で質問し、アドバイスを頂いている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には職員が細目な観察や声掛けを行っている。ご本人との対話を大切にしながら意識を持って接している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には家族が困っている事や、要望等をお聞きし、施設での対応等を検討し報告している。 入所後の様子など細やかな連絡、報告に心掛けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際の対話の中で早急な対応や、将来的な目標など支援内容を見極め、ご本人やご家族に提案し対応に心掛けている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者の負担にならないような簡単な家事を一緒にしたり、リラックスした雰囲気の中で会話を楽しんだりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族とは常に連絡を取り、ご本人の精神 状態が落ち着くよう面会に来て頂いたり、外 出を一緒にして頂いたり、家族との絆が保た れるよう支援に心掛けています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に制限は設けず、来て頂いている。 ご本人の様子を見たり、希望があればご家 族や友人に連絡し来て頂いたりしている。	友人や家族の訪問が多い。敬老会への出席 や自宅周辺に出かけている。家族の協力を 得て、外出や外食、墓参り、冠婚葬祭、法事、 見舞いなどに出かけている。年賀状や手紙、 電話などで関係が途切れないように支援して いる。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士のトラブルが無いよう職員が 日々の様子を観察し、配慮している。 個々の個性を見極め、入所者が心穏やかに 暮らせるよう雰囲気作りに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、いつでも相談にのり対応できる ことなどご本人やご家族にお話ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご家族の意向を聞いたり、ご本人の様子を 観察して意向になるべく添えるよう対応を検 討している。	本人や家族の希望や意向を聞き取り、職員 間で話し合っているが、記録がなく、思いや 意向の把握が十分とまでは言えない。	・思いや意向を把握する方法や記録 方法の検討
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご家族や関係者、担当ケアマネよりこれまでの 生活歴や経過等お聞きし、把握できるように している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察する中でその方の生活パターンをつかみ、関わりの中で得た情報は職員間で共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を理解し、担当職員も交え話し合いを行っている。現状に即した介護計画となるよう定期的に検討を行っている。	家族や本人の意向、医師の意見を参考にして、サービス担当者会議で話し合い、計画作成担当者が計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングをし、認定期間に応じてや利用者の状況の変化に合わせて計画の見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容を個別に記録している。職員間の引き継ぎノートの記入も行い朝のミーティングで報告、情報の共有を行いケアに当たっている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに対応できるよう柔軟なサービスに心掛けている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の暮らしを支える地域資源をできるだけ沢山把握し活用できるように、情報収集とコミュニケーションに努力していきたい。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの心身の状態を一番把握して下さっている個々のかかりつけ医を大切に、主治医のもとに受診して頂いている。職員が付添い医師との連絡も行っている。	利用者それぞれのかかりつけ医を主治医としている。医師への情報提供や受診の支援をしている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者の身体状況は看護職員にこまめに報告し、変化や体調不良があった場合は一緒に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入、退院時においては医療機関の担当者から情報を得たり、今後の対応や留意する事についてなど相談している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた施設としての指針を作成し、契約時にご家族に説明している。今後入所者の重度化に伴い、ご家族の意向や主治医の意見を伺い、三者共有の方針のもとケアに当たっていきたいと考えている。	指針があり、契約時に家族に説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、家族や医師、関係者とその都度話し合い、方針を共有して支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	個々の状態や行動様式を把握し、それぞれに適した対応を行い事故防止に努めている。事故の予防や緊急時への対応等定期的な訓練はできていないので、今後は全職員を対象に定期訓練を実施し、迅速適切な対応ができるようにしたい。	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、翌日のミーティングで話し合い、法人の全体会議で検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法や誘導は全職員及び利用者に日頃から声掛けをし、周知徹底に努めている。地域住民に参加してもらっての避難訓練を実施できていないので、計画し協力体制を築いていきたい。	年2回、法人全体で火災時避難訓練(昼夜想定)を利用者も参加して実施している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者の目線に合わせ、一人一人の身になって言葉をかけたり、接するよう全職員心掛けている。	職員は、自分が受けたい支援やしてあげたい支援を考えながら、利用者の気持ちになり、利用者のその人らしい尊厳を大切にして、誇りやプライバシーを損ねることのないように言葉かけや対応に気を付けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自分の希望を遠慮なく言えるような雰囲気作りに心掛けている。無理強いをせず、必要がある事については説明し、納得してから行動してもらうように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や就寝時間はほぼ決まっているが、それ以外のご自分のペースで過ごして頂いている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれが出来るよう、必要があれば職員が手伝いをしている。ご本人の希望があれば馴染みの美容院へお連れしたりしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳前の台拭きや食器洗いなどご本人の体調や気分に応じて手伝って頂いている。珍しい物や新鮮な食材を見て頂き、食事が楽しみになるよう工夫している。	法人からの配食を利用している。利用者はテーブル拭き、お盆拭き、食器拭きなどを職員と一緒にしている。利用者の好みを取り入れた献立で、毎日、朝市で新鮮な食材を購入し、季節感のある栄養バランスのとれた食事を提供している。同じ食材で調理方法を変えて(魚を刺身や揚げ物、煮物など)少量ずつ盛り付け、品数が多く、目で楽しみ食欲が出るように工夫している。外食や事業所で作った弁当を持ってドライブに出かけたり、夏には法人全体でビアガーデンを開いて楽しんでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地元の新鮮な食材を毎日朝市で購入している。少量で品数を多くし、栄養のバランスが取れたメニューになるよう工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の含嗽や歯磨きは声掛けをし、実施できている。介助が必要な方は職員が支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせて排泄支援を行っている。 トイレ誘導や声掛けのタイミングに注意し、排泄支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して一人ひとりに合わせた声かけや誘導でトイレでの排泄が出来るように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設は魚と野菜中心の食事であり、水分摂取も野菜や果物ジュースなど食物繊維を多く取るように心掛けている。毎日フロアで全員が体操を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望を尊重し、二人で入浴されている方もいる。無理強いせず、状態を見て個々に応じた入浴となるようにしている。	入浴は毎日、10時から15時まで可能で、利用者の希望や体調に合わせてゆっくり入浴が楽しめるように支援している。入浴したくない人には、タイミングや声かけに工夫して入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や自室での休息は自由にして頂いている。 ベッドも安全面を考慮し、低くしている。 寝具は季節に応じ適切な物に替え、清潔を保持し気持ちよく眠れるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護職員が行っている。 誤訳や飲み忘れがないよう記録している。体調に変化があった場合は直ぐに看護職員に報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体的には季節の行事や誕生会等を行っている。一人一人の希望を伺い、細やかな気分転換はできていないので、今後は入所者参加型の楽しみごとを増やしていきたい。	テレビ視聴（歌番組、水戸黄門、相撲など） DVD視聴、本や新聞を読む、編み物、縫い物、習字、ぬり絵、トランプ、風船バレー、体操、歌、カラオケ、銀杏拾い、いちじくジャムづくり、プランターの花植えや手入れ、畑づくり、草取り、テーブル拭きなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いを持って日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の希望に応じ散歩や買い物に出掛けられている。ご本人とご家族の希望で休日は定期的に出かけておられる方もいる。	散歩、買い物、ドライブ、花見、外食など、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況によっても違うが、能力に応じて買い物等行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由に行えるようにしている。その方の要望に応じて手紙を代筆したり、電話番号を押したりお手伝いをしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には入所者手作りの季節の作品や展示物を飾っている。 外の景色も楽しめるようカーテンを開け、明るい空間作りに心掛けている。	共有空間の大きな窓から自然の光が差し込んで明るく、温度、湿度、換気、音などに配慮している。テーブル、椅子、ソファを配置し、利用者の作った季節の飾りや、季節の花を生けてある。利用者それぞれの居場所があり、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士おしゃべりできるようイスやソファを配置している。入所者は自分の好きな場所に思い思いに座り会話を楽しんでもらえる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと整理ダンスは施設の備品であるが、ご自分の使い慣れた家具を置けるよう制限は設けていない。家族の写真や小物等ご自分の好みに合わせたお部屋作りをお手伝いさせて頂いている。	テレビ、ラジオ、椅子、収納ケース、洋服かけ、使い慣れた生活用品や好みの物を持ち込み、家族の写真やカレンダーを飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や怪我が無いよう表示をしている。 環境や物品等について入所者が安全、快適に日々の生活を送れるよう配慮していきたい。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームすこやか

作成日： 平成 25年 5月 10日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		法人の理念「共に生きる」を事業所の理念としている。理念を事業所内に掲示し、唱和しているが、事業所独自の理念としては作っていない。	理念の作成 地域に密着した理念をスタッフ全員で作成し共有し実践する。	外部評価終了後、2/21に職員に記入用紙を配布し、させて頂く介護、グループホームに入った時にしてほしい介護、職場での気付きを集約し全員で理念を作成していった。3月のミーティングで発表し全員で検討後、文章化して決定後掲示した。	0カ月
2		自己評価の内容を全職員に提供し、全職員の意見を聞くが全員の意見が聞き取れず全職員での取り組みにまでは至っていない。	全職員で自己評価の取り組みを行って評価を具体的な改善に活かしていきたい。	今後、自己評価は全職員が記入作成したものを全職員で確認する。改善策については、改善策を検討し実践し評価していく。	2ヶ月
3		推進会議において、メンバーの拡大がはかりにくい。会議での意見をサービス向上に活かしていく必要がある。	推進会議において、地域メンバーの拡大と内容を充実させる。	現地域メンバーの方からの情報収集により新メンバーの選択及び働きかけを行う。報告や話し合いの内容を再度検討する。(コンビニ、ガソリンスタンド、スーパー、ご近所の方等を幅広く多くの中から参加を依頼していく)	6ヶ月
4		法人研修を月1回実施している。事業所内での定期的な研修は行われていない。日常業務の中で助言、指導をし学べるように支援している。職員研修を充実させる必要がある。	外部研修、内部研修の充実を図る。	職員研修で内部研修の充実、スタッフ全員で研修計画の立案、実施評価を行う。関連する外部研修の参加の充実。	1年
5		利用者の思いや意向を把握できていない。	利用者の思いや意向を十分に把握しサービス内容に反映させる。利用者の思いや希望を把握し記録に残しスタッフ間で共有する。	利用者の思いや願いや気持ちを抽出できるような会話のキャッチボールを行いながらスタッフ間で気共有して記録の充実をはかっている。	日常

6		全職員を対象とした応急手当や初期対応の訓練が不十分	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける。	次回の全職員ミーティングにおいて応急手当や初期対応の訓練を実施する。25年度の職員研修で2回実施予定	6ヶ月
7		災害対策における地域との協力体制が不十分。地域との協力体制を構築する。	地域との協力体制を構築する。	緊急時連絡網、避難経路をスタッフ全員で再確認して、次回ミーティングで災害時の利用者が避難できる方法を全職員が検討し避難誘導を身につける。地域住民の方に協力依頼し避難訓練に参加して頂く。日頃から地域住民の方とのコミュニケーションを深め事業所の様子を知って頂く。	6ヶ月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。